

PICK UP 授業

データベースやプログラミング言語・演習Ⅱでは、このような授業をしています。



データベース

データベースは2年次に開講されている専門基礎科目です。データベースの概念を理解し、情報を正しく活用できる能力を養うことを目的とし、そのために必要な基本概念と実践的な企画・設計・実装・管理の知識を学びます。主な内容として、データベース言語、データベース管理システム、データモデリング、データベース設計と実装技術、データベースの分類などについて解説します。また、データベースの基礎を既知とした上で、3年次に開講されているデータマイニングでは、より高度なデータの利用、分析、データからの知識発見、知識処理の技術を学びます。



Teacher's Voice

◀生命情報学科
鍾 寧 教授

高度 ICT 技術と生命科学、認知神経学を組み合わせることによって、人間の情報処理メカニズムを深く解明し、新たな認知モデルの発見や医療・福祉、マーケティング、脳やバイオビッグデータに基づく新たな知的サービス産業・イノベーションの創出などに応用していきましょう。認知症やうつ病の病理の解明、治療、予防や人工知能・ウェブインテリジェンスの開発を目指しています。



プログラミング言語・演習Ⅱ

プログラミング言語・演習はⅠからⅣまで開講され、2年間をかけて卒業研究や専門科目における課題を解くために必要なプログラミング技術を学びます。演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだC言語の基礎に続いて、ポインタ・構造体・ファイル処理等の実用的なプログラムを作成するためには欠かせない文法事項を学びます。講義による文法事項の説明・知識確認の小テスト・プログラム作成課題を通してプログラミング技術の向上を図ります。



Teacher's Voice

◀生命情報学科
関口 達也 准教授

生命情報学は、生物機能の仕組みを情報科学的手法を利用して解明していく学問分野です。そのため、プログラムの作成は多くの研究テーマで重要な役割を果たします。コンピュータを駆使して、目に見えない細胞の中の生命現象を探索することの難しさ楽しさを知ってもらいたいと思います。

将来について

取得可能な資格

- 基本情報技術者試験
- 応用情報技術者試験
- ITパスポート試験
- 医療情報技師

卒業後の主な進路

- 本学または他大学への大学院進学
- 情報通信関連企業
- 製造関連企業(機械・電気・精密機器など)
- 金融機関
- 公務員 ほか